

「葛西臨海水族園の更新に向けた事業計画（素案）」に対する意見募集の結果

東京都は、令和元年12月26日（木）に、「葛西臨海水族園の更新に向けた事業計画（素案）」を公表し、東京都ホームページへの掲載等を通じて、広く都民の皆様のご意見を募集しました。

貴重なご意見を多数いただき、誠にありがとうございました。

ここでは、お寄せいただいた主な意見の概要と、それに対する東京都の考え方をご紹介させていただきます。

1 意見募集の期間と件数

(1) 募集期間

令和元年12月26日（木）から令和2年1月25日（土）

(2) 意見総数

268通 522件

(3) 集計方法

1通のなかにある、ご意見と考えられる部分を件数として集計し、同様の趣旨と考えられるご意見については、要約の上、まとめて「ご意見（概要）」として掲載しています。

ご意見（概要）	東京都の考え方
葛西臨海水族園の更新に向けた事業計画（素案）に関する意見（516件）	
第1章 葛西臨海水族園のあるべき姿 について（264件）	
新たな水族園像について（19件）	
<ul style="list-style-type: none"> ・葛西臨海水族園のあるべき姿、その新たな水族園像や施設性能を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・葛西臨海水族園の更新に当たっては、近年の社会状況も踏まえ、生物多様性保全への取組を展開する等、持続可能な社会の実現への貢献や、葛西という地域の価値、さらには、東京という都市の価値を高めること等のグローバルな視点も重要と考えます。このことを踏まえ、今後、事業計画に基づき、あらゆる方が学び、楽しんでいただける水族園を目指してまいります。 ・キャッチコピーの設定については、今後新たな水族園の実現に当たり、検討させていただきます。
<ul style="list-style-type: none"> ・あるべき姿は妥当。理念は良いが長い。キャッチコピーがあると良い。 ・公共の教育機関、文化施設として認識すべき。水族園はテーマパークではない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業計画2～4頁の通り、都立の水族館として、「海と接する機会を創出し、海と人とのつながりを通して海への理解を深める水族園」とする理念の達成に向け、ア 展示・空間演出 イ 収集・飼育・繁殖 ウ 調査・研究 エ レクリエーション オ 学習・体験 カ 環境保全への貢献という6つの機能を有機的に繋げた取組を実施してまいります。 ・なお、現水族園同様、ショー的なアトラクションは予

	定しておりません。
<p>・地球規模の環境破壊や異常気象は今後も加速度的に進むだろう。そのような状況で、動物園や水族館が果たす役割は大きい。新水族館、それ自体も環境への負荷を最低限にするべきである。</p>	<p>・事業計画2頁の通り、葛西臨海水族園はこれまで、自然教育を重視し、水界の生き物にスポットを当てた、自然の多様さ、豊かさを伝える展示、プログラムを実施してきました。今後は、これらにとどまらず、持続可能な社会の実現に貢献することを重視し、長期的、継続的に取り組んでいきます。</p> <p>・さらに、新たな水族園では、事業計画5頁の通り、再生可能エネルギーの導入や、環境負荷の低減に効果的な対策を講じてまいります。</p>
<p>・葛西は、東京湾と東京近郊の水辺環境の保全及び普及活動に取り組むことが重要な責務。東京の公立水族館として、保全活動でも日本、さらには世界をリードして行ってほしい。</p>	<p>・事業計画4頁の通り、新たな水族園では、持続可能性を重視した収集や調達、海への理解を深めるプログラム等、海の持続可能性を守るための取組や活動を基本にします。</p>
<p>・今の水族園を中心に、展示を増やすとともに研究施設を付加して、海の生態系を研究し地球の水環境を守る活動をしなが、子供から大人まで自然や生命を考える機会を与え、それに関する情報をわかりやすく伝える「Sea(Marine)Life Laboratory&Aquarium」とすべき。世界につながる海を持つ東京都だからこそ、意義のある施設にしてほしい。</p>	<p>・事業計画4頁の通り、新たな水族園では、様々な組織・団体等との連携により、研究、活動の幅を広げられるよう取り組みます。また、事業計画15～16頁の通り、研究スペースを拡充し、機能の強化を図ります。また、これまで職員専用で非公開としていた研究スペースを供用し、来園者に発信することが必要と考えています。</p>
<p>・水族園等の最も基本的な役割は、自然の美しさの再現だと思う。自然の美しさは、年月の積み重ねを基本としているため、なぜ「新たな水族園像」が必要なのか、既存施設を捨てて、抜本的に刷新しなければならないのか、基本的な理念が理解できない。</p>	<p>・事業計画2頁の通り、葛西臨海水族園の開園から30年が経過し、この間、持続可能な社会に向けた国際的枠組みが採択され、国内外で様々な取組が行われてきました。こうした社会状況の変化を踏まえて、あり方検討会報告書において、今後の葛西臨海水族園には、海の持続可能性を守る、広く環境保全に繋げる、地域の価値・都市の価値を高めるということを網羅的に実践することが強く求められました。</p> <p>・この報告書を踏まえて、東京都は基本構想を定め、新たな水族園像を示して、自然の多様さ、豊かさを伝える展示やプログラムの実施にとどまらず、持続可能な社会の実現に貢献することを重視し、長期的、継続的に取り</p>

		<p>組むこととしました。その実現に向けては、生き物と人を繋ぐ展示や展示効果を高める新たな空間演出を行うとともに、施設の老朽化対策やアクセシビリティの改善が必要であると考えています。</p>
<p>・建替えなければならない場合も、現在の水族園の理念や魅力を引き継いでほしい。公立なのだから、入館料は抑えて教育的な意義を尊重し、下手にレクリエーションに走らない方がいい。今の料金は非常に魅力的で、民間の施設には入れない親子にも門戸を開いている。誰一人取り残さないSDGsの理念に沿っている。</p>	<p>・新たな水族園の実現に当たっては、現水族園の実績や魅力を引き継ぎつつも、これからの水族園に求められることや、現水族園が抱える課題を踏まえ再生いたします。</p> <p>・現水族園同様、ショー的なアトラクションはありません。</p> <p>・また事業計画23頁のとおり、入園料等の利用設定は、都立の水族館としての使命を果たす観点から、誰でも利用しやすいように、適切な価格等を検討します。</p>	
<p>・都民の誰もが気軽に来園できる利用設定であってほしい。</p>		
<p>・「6つの機能」の1点目、2点目が機能と定義されていることに違和感を感じる。結局のところはよく言われる4つの役割にとどまっているのではないか。</p>	<p>・事業計画3、4頁の通り、6つの機能とは、葛西臨海水族園の今後のあり方を検討する機会を捉えて、動物園や水族館が有するとされる4つの機能（調査・研究、レクリエーション、教育、種の保存）を再構築し、特色を反映して独自に設定したものです。</p> <p>・生き物と人をつなぐ「展示」と、その展示効果を高める「空間演出」が重要であること、水族園の展示を支え、生み出すため、「収集・飼育・繁殖」が欠かせないことから、4つの機能に加えて、新たに機能として位置づけました。</p> <p>・事業計画3頁の通り、新たな理念を達成するため、これら6つ全てを有機的に繋げた取組となるように発展させてまいります。</p>	
<p>実現に向けた進め方について（245件）</p>		
<p>「既存施設とは別に建築する建物に水族園機能を移すこと」について反対（186件）</p>		
<p>（反対の理由等）</p>		
<p>・芸術的に価値があり、使いながら保存することを望むため、文化的記憶のよすがを壊されることが悲しいため、既存施設の移設も改築も取り壊しも反対</p>	<p>・既存施設は、水族館として、様々な機能を発揮し、また新たな展示を実現することで、平成元年の開園以来、多くの方々にご来園いただき、親しまれてまいりました。</p>	

<ul style="list-style-type: none"> ・現在の施設を保全することで長寿命化し、内部の水槽の展示替えや設備の更新などを行うことで水族園として使い続けてほしい。さらに、水量の多いマグロの大水槽などの入る新館を増築するなどにより魅力ある水族園へと更新してほしい。日本が世界に誇る建築家・谷口良生氏の作品で、素晴らしい建築である。解体するなど考えられず、優れた建築の文化価値として重視し、維持する方向で検討すべき 	<ul style="list-style-type: none"> ・しかし、平成元年の開園から令和元年で30年を迎え、施設や設備の老朽化や展示水槽の亚克力ガラス等の劣化が進んでいます。 ・また、現在の施設では、バリアフリールートとして一部業務用動線を利用していますが、これらの改善も必要です。これから水族園を更新していく現在において都が目指すべきは、あらゆる方が、同じ動線で、ともに観覧できる『バリア（障害）のないユニバーサルデザインによる水族園』の実現であると考えます。
<ul style="list-style-type: none"> ・既存のポテンシャルをうまく活かすべき。SDGsを達成するサステナブルな事業計画となる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・加えて、今後の葛西臨海水族園が掲げる新たな水族園像の実現に向けては、これまでの展示・空間演出の抜本的な刷新が必要となります。
<ul style="list-style-type: none"> ・現在の建物から水族館機能を奪うことに反対。維持費がかかっても未来の東京のために残していくべきもの。 	<ul style="list-style-type: none"> ・こうした老朽化や、現在のニーズに合ったバリアフリーへの対応、新たな水族園像の実現に向けては、既存施設の大規模工事を要します。しかし、現在の施設では、
<ul style="list-style-type: none"> ・既存施設を他機能化するのではなく、既存施設のアプローチとエントランス空間が、葛西臨海公園や東京湾、レストハウス等と調和して素晴らしい環境を形成している状態をうまく活用すべき。 	<ul style="list-style-type: none"> ・設備や配管が過密に配置されているため、更新作業のスペースがありません。また、工事期間中に長期間の休園が必要となります。さらに、工事期間中に生き物を一時保管できるキャパシティを持つ水族園等の手配は困難なため、生き物を飼育する仮設設備の整備に多額の費用を要します。
<ul style="list-style-type: none"> ・改修で問題は現代の技術で解決できると思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・こうした様々な課題があることから、既存施設を改修し、継続して水族園として運営していくことは非常に困難です。そのため、既存施設とは別に、新たに建築する建物に水族園機能を移設することといたしました。
<ul style="list-style-type: none"> ・設備更新やバリアフリー対応については、対応可能とのことで、既存施設を水族館として使わなくなる理由とはならない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・こうした様々な課題があることから、既存施設を改修し、継続して水族園として運営していくことは非常に困難です。そのため、既存施設とは別に、新たに建築する建物に水族園機能を移設することといたしました。
<ul style="list-style-type: none"> ・多くの都民によってよき記憶となっている今の環境を、都が誇る未来へ残すべき財産として維持発展すべき。 	<ul style="list-style-type: none"> ・上記のような、新たな水族園の整備と水族園機能の移設が必要である理由や、バリアフリーに対する考え方等を、事業計画7～10頁のコラムに追記しました。
<ul style="list-style-type: none"> ・既存水族園の取り壊しに反対。水族園として活用しつづけることを強く望む。 ・文化的価値のある既存建物の保存、再生の方が新築より価値が高いと考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・既存施設については、パブリックコメントや、有識者からも、利活用に関するご意見が出されています。これらを踏まえて、水族園機能は新たに建築する建物に移設しますが、新施設整備の取組と並行して利活用の可能性とその採算性等について検討を行ってまいります。水族

<ul style="list-style-type: none"> ・建築は文化が固定化されたもので、葛西臨海水族園はその中でも極めて質が高い。建て替えることは文化の破壊と同義である。 	<p>園機能を移設した後に、施設の状態等を調査の上、そのあり方について決定していく旨を、事業計画6頁に記載しました。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・既存の設備を活かし、ソフト面から工夫することが、東京都の知的財産、歴史的財産を作り上げていくことにつながる。 	
<p>先進国の文化施設は、新築から既存施設を利用した増築改修に流れが変わっている。都がそうした流れを無視したら世界の物笑いになるだろう。</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・現在の葛西臨海水族園の建築を、水族館として継続利用すべき。水族園の理念は既存と新たな水族園で本質的な違いがあるとは思えないため、理念の実現のために新築という結論は無理がある。配管や設備の取り換えは可能、大規模改修中の生き物の飼育については、他の水族館に支援を求めることもできるし、仮設の整備に費用はかかるが、公金はどういう必要なことに躊躇なく支出すべき。長期休園は仕方がないものとして受け入れるしかない。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・谷口氏の素晴らしい建築物が印象に残っている。わずか数十年で建て替える意味が分からない。優れた建築物は残す方向にしてほしい。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・リフォームすることと新たに建てることで環境負荷が少ないのはどちらなのか、データで誰もが比較できる形で示してほしい。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・建て直すほど老朽化が進んでいるとは思えない。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・築30年の公共建築物を建て替えるということは、よほどの理由がない限り認めがたい。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・ベビーカーで訪れた際にも入口以外不便した記憶がないので、少し手を加えれば十分可能。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・大規模施設の増築で風景を乱すことも認められない。現施設内ではできない展示機能のみ外側に最小限追加し、その他をやりくりすれば改善可能であ 	<ul style="list-style-type: none"> ・新設する建物に水族園機能を移設する必要性は、4/34頁に記載の通りです。 ・新たな水族園の実現に当たっては、周辺環境や施設と

<p>る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近年事業が大型化しているが、かつてのような芸術的価値の高い珠玉の建築が生まれにくくなっている。その稀有な代表作品といえる葛西臨海水族園の建築及び園地全体の美しい景観をこれからも大切にすべき。 ・美しい外観の水族館はなかなかないので、あの外観の魅力は水族館であってこそ輝くと思う。 ・新設など時代錯誤。カヌースラロームもできる中、施設の相乗効果をあげることを考えるべき。 	<p>の調和や連携を図りながら、東京湾に面する立地の利点を十分に生かして、葛西臨海公園全体の魅力向上を目指します。ご意見も踏まえ、事業計画 17 頁の施設全体に関する整備要件に、周辺環境との繋がりに配慮した施設整備を行う旨を記載しました。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・時代に変化に合わせて、建物も変える必要があることに異論はないが、別な建物を建ててそこに移した方が楽だと早急に結論付けているように感じられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現水族園は、令和元年で開園後 30 年が経過し、バックヤードでは設備等の老朽化が進んでいます。大規模更新が急務であることや、環境問題をはじめ、国内外の社会状況が変化していることから、平成 29 年度より専門家による検討会を設置し、これからも多くの方々に親しまれる都立水族館として持続的に発展していくためのあり方やその実現方策を検討していただきました。
<ul style="list-style-type: none"> ・専門家の意見を無視し、深い議論なく壊してしまうのは残念。 	<ul style="list-style-type: none"> ・都では、その報告を踏まえ、基本構想や事業計画を策定しております。こうした経緯を、事業計画 40 頁に記載しました。なお、検討会の資料及び会議録は、東京都建設局のホームページで公開しています。
<ul style="list-style-type: none"> ・事実を隠蔽して進めていることに反対。 	<ul style="list-style-type: none"> ・既存施設については、パブリックコメントや、有識者からも、利活用に関するご意見が出されています。これらを踏まえて、既存施設についても、新施設整備の取組と並行して、利活用の可能性とその採算性等について検討を行ってまいります。水族園機能を移設した後、施設の状態等を調査の上、そのあり方を決定していく旨を、事業計画 6 頁に記載しました。
<ul style="list-style-type: none"> ・今後の使い方の見通しがなくまま水族園機能を新たな建物に移築することに反対。葛西臨海水族園に水族園機能を持たせたまま存続させてほしい。既存施設の持つ建築、文化的価値、可能性について、全く議論がされないまま新たな施設を建てようとしていることは非常に問題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本構想素案に対しては、79 通のご意見をいただきました。いただいたご意見も参考に、都は基本構想を策定しました。
<ul style="list-style-type: none"> ・新しい水族館を作ってしまった場合、既存の水族館は結局使われずじまいになり、維持費がかかるから取り壊しになると疑っている。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・本館は耐震性能などに問題がないならばリフォームして新館と併用することを検討すべき。持続可能な社会の実現といいながら、本館の取り壊しを前提とするのは納得できない。 	

<ul style="list-style-type: none"> ・パブリックコメントでも 89%が既存施設の継続使用を望んでいるが、それを無視した構想は税金の無駄遣いで認められない。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・ハコモノ行政に税金を使ってほしくないため。 	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでも葛西臨海水族園は、東京の川・海から世界の海までの多様な生き物を展示し、繁殖や希少種保全の取組、多様な教育プログラムの提供といった実績を積み重ねてきました。 ・平成29年度より実施した有識者による検討会においては、これからの葛西臨海水族園には、これまでの実績を踏まえつつ、現在の社会状況に鑑み、生物の多様性とどまらず、人の営みと海との関係性にスポットを当て、海の持続可能性を守る取組が求められること、あらゆる学びの機会を提供するプログラムの拡充等を通じて、広く環境保全に繋げること、水族館ならではの体験や交流を通し、葛西という地域の価値、さらには東京という都市の価値を高めることが求められると提言されました。 ・検討会で示された新たな理念の実現に向け、引き続き取り組んでまいります。
<p>既存施設の保存活用を希望（35件）</p>	
<p>（保存活用を希望する理由等）</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・既存施設を取り壊さないでほしい。最大限活用すべき。 	<ul style="list-style-type: none"> ・平成元年の開園から令和元年で30年を迎え、施設や設備等の老朽化が進んでいます。
<ul style="list-style-type: none"> ・既存施設は、谷口吉生の設計で、建物の用途は特に関係性が深くないので、この外観と水辺の関係は活かし、または再生することは可能と考える。ぜひ残してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・しかし、4/34頁に記載の通り、現水族園を改修して水族園として使い続けることには多くの課題があり、非常に困難です。そのため、既存施設とは別に、新たに建築する建物に水族園機能を移設することといたしました。
<ul style="list-style-type: none"> ・優れた建物を壊すのは反対。30年で建て替えるのはもったいない。設備は交換の必要があると思うが、躯体はまだ使えるのではないかと。 	<ul style="list-style-type: none"> ・既存施設については、パブリックコメントや、有識者からも、利活用に関するご意見が出されています。これらを踏まえて、既存施設についても、新施設整備の取組と並行して、利活用の可能性とその採算性等について検討を行ってまいります。水族園機能を移設した後、施設の状態等を調査の上、そのあり方を決定していく旨を、事業計画6頁に記載しました。

<p>・ガラスドームは建築文化財であり風景と一体化した得難い水族園である。残すべき。解体は日本人の評判を落とすことになる。</p>	
<p>・古いものを壊して新しいものを作っていったら、将来この時代を代表する建築物が全く残らない。</p>	
<p>・葛西臨海水族園は谷口氏の名作であり日本が世界に誇る後世に残すべき建物。</p>	
<p>・大切な財産を誰かの利益のためや時代遅れの考えで壊さないでほしい。</p>	
<p>・多くの歴史的建築物が、時間とともに機能を変えて生き続けているようにその利用方法、用途については様々な検討がなされるべきと考えるが、リノベーションをして古い建築を新しい時代に存続させるというのが、今の時代の大きな流れであり、東京都がこの建築を残し、時代に応じて様々なあり方で更新していくことは、これからの社会の目指す方向についての大きな指針となると思う。</p>	
<p>・歴史的価値のある建物を保存することも都の重要な仕事だと思うため。</p>	
<p>・30年で建て替えることは、世界各地がSDGsの達成を目指す中、非常に害のある判断である。都民の共有財産である財源の無駄遣いであるようにも感じる。</p>	
<p>・展望台から見られる海の景色は本当に素晴らしく、ガラスドームに至る水族園のアプローチも見事である。水族園は借景という手法で見事に海辺を使い、それまでの東京湾になかった建築装置である。東京湾の海辺を変える、都市の暮らしに積極的に利用する、記念となった建築で、最大限建築物への尊敬をもって取り扱ってほしい。</p>	
<p>・世界的にも有名な葛西臨海水族園をなぜ壊すのか。一体何のためなのか。</p>	
<p>・我が国は、すでに今から新しい建物を建造して勝負するには、他の国力とセンスでかなわないのでは</p>	

<p>ないか。古い建物（先人の名建築）を残していかなければ、観光産業を盛り上げるのが難しくなると考える。</p>	
<ul style="list-style-type: none"> 葛西水族園の建築は東京を代表する特色あるものとして広く親しまれており、保存すべきもの。 	
<ul style="list-style-type: none"> 周辺環境に溶け込みながら海の世界へと誘うアプローチを含んだ現在の素晴らしい水族館建築は他では見ることができず、建築家谷口氏の作品であり都民の財産、水族園にとっても財産である。 	
<ul style="list-style-type: none"> 既存の水族館について今後の存続方法についての計画が見当たらない。 	
<ul style="list-style-type: none"> 既存館は葛西臨海公園の顔の施設として違った活用の仕方もあると思う。 	
<ul style="list-style-type: none"> 開園後 30 年だと、コンクリート構造物としては寿命半ばである。建築財産として寿命を迎えるまで使い切るため、既存建物は改修し、新たに追加必要な機能は分棟増築することで、将来も水族園機能を拡充、充実、改変させていくか、機能・用途を変更して、運営も含めた利用方法を変え、社会情勢等に柔軟に順応変化する慣習を導くため、建物の用途変更の設計、改修工事、運営を一括りにした提案競技を元に事業者を選定し、新たな施設として蘇らせる等、建築財産の循環的長寿命化利用の継承が必要と考える。 	
<ul style="list-style-type: none"> 既存館の保存と活用については、新館と同様に、民間のアイデアや活力を導入することで、葛西臨海公園の施設として水族館以外のものに生まれ変わらせることができ、公園の魅力をさらに発揮できるものと考えている。 	
<ul style="list-style-type: none"> 今の施設は入り口は素敵だが中は暗くて狭いので広く明るい施設になってほしい。大人向けのレストランとか別のものに使えるようになるのが一番いい。 	

「既存施設とは別に建築する建物に水族園機能を移すこと」について賛成（22件）	
<ul style="list-style-type: none"> ・6つの機能を無理なく満たすためには、現在の水族園建物をふさわしい改修を施し、新設建物と相互に機能連携した水族園にするべき。既存施設について、「水族園機能を移設後、施設の状態等を調査の上そのあり方を検討し、今後葛西臨海公園にふさわし形で施設を利活用できるか検討する」とされていることに基本的に賛同だが、新施設と併せて機能させることを選択肢に置いて議論すべき。しかし、あくまで「新たな水族園像」の実現という目で考えるべき。現在の建物を絶対視しすぎては水族園の未来が見えない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業計画に基づき、新たな水族園像の実現に向け取り組んでまいります。 ・なお、既存施設についても、新施設整備の取組と並行して、利活用の可能性とその採算性等について検討を行なってまいります。水族園機能を移設した後、施設の状態等を調査の上、そのあり方を決定していく旨を、事業計画6頁に記載しました。 ・また、引き続き既存施設の設計者に対して、丁寧に説明を行ってまいります。
<ul style="list-style-type: none"> ・既存建物の保存、活用については新たな水族館の計画から切り離して考えた方がよい。それによって新水族館の計画が大幅に遅れてしまうことを危惧している。既存施設は水族館施設として利用するには無理がある（バリアフリー、観覧動線）。改修には新築よりも莫大は費用が掛かり、それが利用料金に上乗せされるようなら大問題 	
<ul style="list-style-type: none"> ・時代のニーズに合わせた水族園への更新には賛成。ただし都民や設計者の理解やある程度の納得される必要はあるだろう。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・新しく水族館を刷新することは賛成。ただし展示の縮小や陳腐化はあってはならない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業計画12頁のとおり、新たな水族園では、現在の水族園と同等程度の総水量を確保し、展示構成ごとに再配分いたします。また、今後これまでの飼育展示のノウハウを活用しながら、多様な生き物と生息環境を展示し、学習効果を高める水槽等を検討してまいります。
<ul style="list-style-type: none"> ・既存施設の有効活用という縛りにとらわれず、民間による新たな発想で取組を進めるべき。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業計画24頁以降の通り、新たな水族園の整備や維持管理に当たっては、民間のノウハウを活用しながら、水族園機能を充実させ、公的サービスを確保できる事業手法として、PFI-BTO方式を活用し、事業を進めてまいります。

<ul style="list-style-type: none"> ・全天候等に対応した屋外動線や震災時の非常時に生物維持が十分にできる発電システム等が必要で、既存の建物では難しい印象を受けるうえでの増築賛成である。実際にはどうか、技術的な側面から分析し、具体的な現状を都民に開示して欲しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・4/34 頁に記載の通り、現水族園を改修して水族園として使い続けることには多くの課題があり、非常に困難です。そのため、既存施設とは別に、新たに建築する建物に水族園機能を移設することといたしました。 ・新たな水族園の整備と水族園機能の移設が必要である理由や、バリアフリーに対する考え方等を、事業計画7～10 頁のコラムに記載しました。
(移設賛成とする理由)	
<ul style="list-style-type: none"> ・働きづらく、ユニバーサルデザインも欠如しているため、水族園は新たに立て直した方がよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業計画6 頁の通り、新たな水族園の実現に向けて、既存施設とは別に建築する建物に水族園機能を移すこととしました。
<ul style="list-style-type: none"> ・建物が老朽化し、時代に沿ってこの類の施設は改修が必要なことは認める。改修の方向として、示されていることはもつともである。 	<ul style="list-style-type: none"> ・既存施設についても、新施設整備の取組と並行して、利活用の可能性とその採算性等について検討を行ってまいります。水族園機能を移設した後、施設の状態等を調査の上、そのあり方を決定していく旨を、事業計画6 頁に記載しました。
<ul style="list-style-type: none"> ・国内外の水族館の多くが建物よりも設備的に維持管理できないため新たな施設検討をしてくれているとも聞く。今回の新築、移設は理にかなっている。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・既存施設はいたるところに古臭さを感じ、デザイン優先で客のことを考えた建物とは言えない。ベビーカーのルートが裏側を通る等驚くべきこと。基本構想の達成には新館に機能を移すのが常識的な考え方。省エネルギーの面からも、新たな建物、設備に代えた方がいい。これを今の建物に入れるのは現実的に無理。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・海外の先進的な水族館施設と比べて、展示面、設備面、バリアフリー面、防災面で後れを取っている。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・老朽化はわからないが、長く使える建物なら新築でもいいと思う。 ・大切なものは建物機能やその空間で、ガラスドームは飾り・演出である。建物として最も大切な機能・空間が、固定されたオーダーメイドそのものでフレキシブルさがなく、新たな水族園になじまないという発想から作り変えるという選択は理解できる。 	

	<ul style="list-style-type: none"> ・都民の税金で建てられるので、一個人の作品を残すことが優先されてはならない。 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・外観を残すために老朽化かつ時代の変化に取り残された施設の維持管理に多額の税金を使うことは合理的ではない。訪れる人すべてに、水族館本来の機能を果たしていくことが一番の目的で、建物の保存が優先されることはあってはならない 	
その他（2件）		
	<ul style="list-style-type: none"> ・移転するなら公園外にすべき。公園内に建てると景観への配慮から地下空間を活用せざるを得ず現行の水族園と同じくメンテ性の悪い建物にしかないのではないか。東京スポーツ文化館を水族館に改装することを検討してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・葛西という土地は、人の営みと海との関係性を伝えることがふさわしい、淡水と海水との結節点という立地と考えております。 ・新たな水族園の実現に当たっては、周辺環境や施設との調和や連携を図りながら、東京湾に面する立地の利点を十分に生かして、葛西臨海公園全体の魅力向上を目指します。周辺環境との繋がりに配慮した施設整備を行うということや、メンテナンス性能を確保していくことといった施設全体に関する整備要件を、事業計画 17 頁に記載しました。
	<ul style="list-style-type: none"> ・今の建物を残すかどうかは後でゆっくり議論すればいい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・水族園機能は新たに建築する建物に移設しますが、既存施設については、パブリックコメントや、有識者からも、利活用に関するご意見が出されています。これらを踏まえて、既存施設についても、新施設整備の取組と並行して検討を行ってまいります。水族園機能に移設した後、施設の状態等を調査し、決定していきます。 ・こうした考え方と葛西臨海水族園の現状を、事業計画 7～10 頁のコラムに記載しました。
第2章 葛西臨海水族園の新たな姿 について（56件）		
施設概要について（51件）		
展示・空間演出について（32件）		
	<ul style="list-style-type: none"> ・「近い海」「遠い海」とする魅力的な方向性が示されていて、素晴らしいと思う。他の水族館と同じコンセプトで競うのではなく、東京湾と都市が近接し 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業計画 11 頁以降に示した施設概要に基づき、新たな水族園を実現いたします。

<p>た敷地がもつ特性を最大限生かした世界に例のない水族園の増築を目指すべき。</p>	
<p>・今回の計画で示されているコンセプトは非常に素晴らしく思っているので、ぜひ実現してほしい。</p>	
<p>・東京の川から海へ、7つの海へと壮大な世界を網羅し展示するために現施設は計画されている。川と海、淡水と海水の接点となる葛西に、東京都に残された海の自然を直接体感できる建築とランドスケープが一体となって作られた施設として計画された。このコンセプトとテーマは不変のものであると考え、「遠い海」「近い海」はその一部を取り出した非常に矮小化したテーマである。これまでの世界観を捨てることなく、テーマを再考して欲しい。</p>	<p>・事業計画 11 頁以降に示した施設概要は、新たな水族園の目指すべき姿として、現水族園の実績や魅力を引き継ぎつつも、これからの水族園に求められることや、現水族園が抱える課題を踏まえて設定したものです。</p>
<p>・陳腐化を早めるだけの展示における ICT 等の最新技術導入は再考し、飼育、研究、保守点検のしやすさなど今後の水族園運営に必要な施設要件を再度精査すべき。</p>	<p>・事業計画 11 頁の通り、新たな水族園では、「海と接する機会を創出し、海と人とのつながりを通して海への理解を深める水族館」という理念を達成するため、東京湾流域から大海原へとつながる水界の景観と、それらを構成している生態系のメカニズムのリアルな再現を目指します。</p>
<p>・展示、空間演出については、最新技術はメインにならない。すぐに老朽化されてチープな展示とかわられてしまう。本物の魚に触れてその恵みに感謝できるような場にすべき。</p>	<p>・加えて、標本や模型、ICT 等の最新技術を用いてあらゆる人々の興味・関心を高める空間演出を行います。</p>
<p>・プロジェクションマッピングやショー等で生き物を見世物のように扱うのは虐待であり、子供にとっても悪影響。葛西は生態系の研究のもとに作られた本物の水族園でありこれから先も存続するよう要望する。</p>	<p>・また、展示空間や水槽ごとに、多様な生き物と生息環境を展示する水槽を設置するとともに、人の営みと海との関係性を伝える「ねらい」を設定することで、学習効果を高めてまいります。</p>
<p>・生物中心、優先を徹底的に堅持して欲しい。プロジェクションマッピングや特殊な演出で過剰に味付けされた展示では、生き物を飼育する意味があるように感じられない。都内の水族館でその意味や意義を明示できるのはおそらく葛西だけで、多くの外国人が訪れる首都にそのような水族館があることは今後ますます重要になっていくと思う。</p>	<p>・現水族園同様、ショー的なアトラクションはありませんが、事業計画 22 頁の通り、適宜展示のリニューアルを行うことで、入園者数の確保も図ってまいります。</p> <p>・今後、実現に向けて具体的な施設整備水準を定めてまいります。</p>

<ul style="list-style-type: none"> ・IT技術の活用など展示に工夫を加えて楽しみながら学べるものとするを期待する。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・生き物と人をつなぐ展示と、展示効果を高める空間演出が重要であり、これまでの展示・空間演出を抜本的に刷新しなければ実現できない」との方針は承服できない。実際の魚の生態を無視し、人間の単なる楽しみのための水族園を目指していると思えない。映像やプロジェクションマッピングなどの一時的な興味や人集めのためのお金のかかる企画をやめ、魚や水族、水鳥の生態そのものとして展示し、研究、繁殖ができる水族園を目指すべき。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・持続可能な社会に向けて行動するきっかけづくりを目指していると感じるが、その目標をどのような展示から進めようとしているか、例示をするなどして、今の水族園はほかの水族園との違いを示すべき。西なぎさを干潟展示と見立て、飼育員が生き物を解説するとか、鳥類園を野鳥展示と位置付けるなど、建物に依存しない「展示のかたち」を提唱してはどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業計画 11～14 頁及び参考資料のとおり、展示に「ねらい」を設定し、人の営みと海との関係性を伝えることで、持続可能な関係性を伝える展示・空間演出を行ってまいります。 ・現在の葛西臨海水族園でも、なぎさ等を活用した教育普及活動を行っておりますが、事業計画 4 頁の通り、新たな水族園でも、様々な組織・団体等との連携により、教育、活動等の幅を広げられるよう取り組んでまいります。
<ul style="list-style-type: none"> ・伊豆諸島、小笠原諸島など東京の海をもっと伝えてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業計画 12～14 頁に示した展示構成及び水量等のイメージは、新たな水族園像の実現に向けて必要となる展示水槽として、事業計画検討会で検討していただいた内容を基本としています。
<ul style="list-style-type: none"> ・クロマグロの展示は時代にそぐわない。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・マグロは一周全部回転するよう水槽や水量を工夫してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後、飼育展示業務等で培ったノウハウや、専門的な知見を取り入れながら、新たな水族園像の実現に向け、具体的な整備水準を検討してまいります。
<ul style="list-style-type: none"> ・サンゴ水槽のイラストは素晴らしいがイメージ図では 1000 t クラスではないか。誤解を生む可能性がある。ぜひ 1000 t クラスで作ってほしい。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・極地ペンギンは見せ方が日本全国画一的でわざわざ展示する必要があるか疑問。水槽の冷却に電力が必要で環境保護に反する。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・暑さに弱いペンギンが年間半分程度の日数しか展示されていないのはもったいない。タッチンフィー 	

<p>リン辺りに室内展示場を併設し展示してはどうか。無料休憩所からペンギンが見えるのも良いサービスと思う。</p>	
<p>・温帯域のペンギン展示は継続して欲しい。魚類との混合展示を葛西でぜひ挑戦して欲しい。野生の生きざまを見せてこそ、生態系メカニズムのリアルな再現になり、他館とは一味違う展示で差別化にも資すると思う。</p>	
<p>・マグロ水槽は4000 t 程度確保した方が見ごたえがあると思う。飼育下繁殖にもつながるのではと思う。</p>	
<p>・国内淡水域の展示の拡張をお願いしたい。現行のものも素晴らしいが、水槽の位置が低く、来園者の観覧時間は比較的短時間でもったいない。国内の希少な生き物を展示することで環境問題の啓発につながってほしい。国内移入種を取り上げている他館はとてま少なく、ぜひ葛西で発信して欲しい。</p>	
<p>・本物の海と触れる展示やスペースを設けてほしい。</p>	
<p>・日本の水族館展示生物のコレクションの多大な縮小につながるものではないかと危惧しており、世界の魅力的な海の展示を今後も続けてほしい。</p>	
<p>・新たな展示施設が常設的というよりは企画的内容。水族園の展示内容にはより地域の生態系に根差した内容こそ強めるべき。</p>	
<p>・海に対する行動が変わるような体験が得られる施設がほしい。</p>	
<p>・現行の水族園にいる生き物を他の施設に移譲しないでほしい。他館ではほぼ見られないような国外種が多く、移譲すると他の魚に紛れて見に行っても探しづらい。また飼育の経験値の差から累代飼育が難しくなると思う。</p>	

施設規模について（1件）	
<ul style="list-style-type: none"> ・授乳室や救護室の整備は必要、教育施設や展示水槽、飼育スペースが拡張されるのは期待が持てる。3000 t のマグロ水槽は小さい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業計画 15 頁の施設規模に基づき、今後新たな水族園の実現に向けて検討を進めてまいります。 ・今後、飼育展示業務等で培ったノウハウや専門的な知見を取り入れながら、新たな水族園像の実現に向け、具体的な整備水準を検討してまいります。
施設整備要件について（18件）	
<ul style="list-style-type: none"> ・新たな水族園の敷地の位置、広さ等を具体的に記述すべき。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ご意見を踏まえ、葛西臨海公園における新たな水族園の配置イメージ等を示すため、事業計画 18 頁に配置図を掲載しました。なお、事業計画 16 頁の通り、施設規模は、22,500 m²を予定しております。 ・ご意見にあります平面図、断面図等の各図は検討段階の資料であり、今後、具体的な検討を進めていくべきものであるため、事業計画には掲載しておりません。 ・新たな水族園は、既存の水族園より陸側に配置される予定ですが、周辺環境や施設との調和や連携を図りながら、東京湾に面する立地の利点を十分に生かして、葛西臨海公園全体の魅力向上を目指します。ご意見も踏まえ、事業計画 17 頁の施設全体に関する整備要件に、周辺環境との繋がりに配慮した施設整備を行う旨を記載しました。
<ul style="list-style-type: none"> ・入口、アプローチの位置が示されず建物内部のみの計画となっているが、公園内であり海に面している敷地特性を生かした配置検討になっていない。総合的な配置イメージの計画を進めてほしい。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・分科会検討会報告書の中に、水族園の新施設計画案の平面図や断面図、配置図があった。これらは事業計画素案に記載されるべきではないか。また、新たに計画されている四角い箱の建物は、既存の水族園よりも陸側に配置されており、新たな理念に「海と接する機会を創出し、海と人とのつながりを通じて海への理解を深める」とあるが、海に面していない。建築とは、建物と周辺の環境の在り方も含めて考えられるべきで、東京湾や海に関する文化や歴史を発信する施設であるならば、建築を通して目の前にある東京湾を感じられるべきである。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・良い意味でまじめな教育的施設であってほしい。環境教育を推進するために、ハード面もソフト面も整備してほしい。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・新たな水族園にも、おべんとう広場や芝生広場のような空間を作ってほしい。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・来園者の安全の確保、ユニバーサルデザイン、職員の働きやすさを考慮すべき。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業計画 15、16 頁の通り、教育普及スペース、展示水槽スペース、研究スペース、飼育スペース等を拡充するとともに、19 頁以降の通り、限られた空間を効率的・効果的に活用できる設計とし、水族園機能の充実を目指します。 ・事業計画 15 頁の通り、学校団体等からの無料休憩所の新設要望等を受け、来園者用共用スペースの拡充を予定しています。 ・事業計画 17 頁のとおり、施設の内外において、ユニバーサルデザインに配慮し、バリアフリー対応やアクセシ

<ul style="list-style-type: none"> ・飼育、運営スタッフが理想の水族園像を育て上げるうえで必要な箱や機能を適切に設定することが必要で、形やデザインではなく、新たな水族園の箱としての施設に求める姿や役割を記述すべき。 	<p>ビリティの確保を行うとともに、来園者、管理者、生き物それぞれの目線で、配置やデザイン等を計画してまいります。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・設備は最新の技術を導入し、50年、100年といった長寿命の施設を建てることに期待する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業計画17頁のとおり、主要設備の交換や点検スペース等のメンテナンス性を確保し、長寿命化に対応できる施設としてまいります。
<ul style="list-style-type: none"> ・複数の出入口を設けて混雑緩和できると良い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業計画17頁のとおり、繁忙期でも滞留が発生しない動線を考慮するなど、混雑緩和に配慮した施設を目指してまいります。
<ul style="list-style-type: none"> ・イベントスペースがあると良い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業計画15頁のとおり、企画展ホールにも活用できる教育普及スペースの拡充を行うほか、17頁の通り、ユニークベニューやイベント開催を含め、様々なニーズに対応できるフレキシブルな設計を目指してまいります。
<ul style="list-style-type: none"> ・生物を一番輝かせるのは太陽光ということも強く感じる。水槽の照明には陽光をふんだんに取り入れ、内壁をより濃い青にしてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業計画17頁のとおり、生き物の生態に配慮し、自然光や外気が取り入れられる計画を目指してまいります。
<p>事業費の見込みについて（5件）</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・公共施設の更新は待ったなしだが、一つ一つの施設の更新案を熟慮の上最小の経費で行い、その分を福祉と教育に回してもらいたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業計画21、22頁のとおり、整備費用は現段階の試算であり、引き続き精査を行います。また事業計画24～27頁のとおり、事業手法としては、官民連携方法を導入し、さらなるコスト削減に取り組みます。
<ul style="list-style-type: none"> ・水族館の建て替えにまた五輪施設並みのお金をかけるのは時代感覚として非常におかしい。水族園の巨大化は費用対効果に欠ける。巨大化させる理由の多くが東京湾や流域の生態系展示だが、本物の東京湾や多摩川の水質改善に金をかける方がマシ。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・コスト削減は具体的にどこを削減するのか。施設や機器の整備費等大きいものを削減する考えはわかるが、安かろう悪かろうになる可能性も考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・PFI手法で民間ノウハウを活用することにより、自由な発想や最新技術を生かした設計や、コストを意識した設計・施工が期待できます。また、設計・施工・工事監理・維持管理を一括して複数年度で発注することで、施工方法を見越した設計や契約事務の省力化が可能となり、工期短縮等による施設整備費のコスト削減も期待できます。

		<ul style="list-style-type: none"> 一方、水族園として求められるクオリティを確保するため、飼育展示業務等でこれまでに培ったノウハウ等専門的な見地も十分反映した仕様（要求水準）で発注することで、コストとクオリティの両立を目指します。 また、クオリティの確保をする仕組みについて、事業計画 27 頁に記載しました。
	<ul style="list-style-type: none"> 入場料（700 円を 2000 円）に上げる収支検討は NG。 入園料は安くしてほしいが、経費を圧縮しすぎてつまらないものにならないよう望む。 	<ul style="list-style-type: none"> 事業計画 23 頁の通り、入園料等の利用設定は、都立の水族館としての使命を果たす観点から、誰でも利用しやすいように、適切な価格等を検討します。その際には、維持管理費や利用者数からなる原価を基本としつつ、類似施設の入園料等を勘案しながら設定します。

第3章 実現手法 について （34件）

事業手法について（34件）

<ul style="list-style-type: none"> ライフサイクルコストを見据えた中長期的な計画が必要不可欠で、それを実践して維持管理する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 事業計画 26 頁のとおり、大規模修繕は適切な計画の立案及び確実な実施が必要な業務となります。そのため、これらの業務は、許認可等の法的管理や、事業全体の計画立案及び実施とともに、東京都が実施する業務に位置付けます。 実施に当たっては、事業計画 25 頁のとおり、高い専門性が必要な 6 つの機能に関する業務を担う組織及び施設維持管理運営を担当する業務を担う組織との協力体制を確保するため、組織系統を整理します。
<ul style="list-style-type: none"> PFI を念頭に置いているが、このような公的事業は公主導で行うべきではないか。 PFI-BTO により運営のコストコントロールと民間の力による多様な運営をクリアする意図は理解できる。ただし既存ストックのポテンシャルを活かした公共整備ができるかどうか重要な課題となることは忘れてはならない。利益主体の民間組織に丸投げした結果、市民に魅力のない施設となり利用が減って負担が増えるという例もあるので注意が必要。既存の敷地や施設のポテンシャルを活かしながら、民間組織が培ってきた最先端の知見を、官民が一体となって建設、運営に生かし、世界に自慢できる高いハード、ソフトの質を持った 	<ul style="list-style-type: none"> 事業計画 26 頁の通り、東京都は、引き続き葛西臨海水族園の基本的な運営方針や大規模修繕等の計画の立案と実施を担ってまいります。 加えて、PFI 手法により、民間ノウハウを活用することで、自由な発想や最新技術を生かした設計や、コストを意識した設計・施工が期待できます。また、設計・施工・工事監理・維持管理を一括して複数年度で発注することで、施工方法を見越した設計や契約事務の省力化が可能となり、工期短縮等による施設整備費のコスト削減も期待できます。 なお、水族園として求められるクオリティを確保するため、飼育展示業務等でこれまでに培ったノウハウ等

<p>し、世界に自慢できる高いハード、ソフトの質を持った新しい水族園を事業化していただきたい。</p>	<p>専門的な見地も十分反映した仕様（要求水準）にて発注することで、コストとクオリティの両立を目指します。</p>
<p>・PFI を検討しているようだが、民間運営の水族館はエンターテインメント性が強く、入場料も 2000 円近いのが主流。入場料の観点や今までの多大な研究成果のある研究機関としての観点を含め、民間施設とは違う都独自の純粋な公共施設として存続すべき。</p>	<p>・新たな水族園の実現に当たっては、現在の水族園の実績や魅力を引き継ぎつつも、現在の水族館に求められることや、現水族園が抱える課題を踏まえ再生いたします。また、現水族園同様、ショー的なアトラクションはありませんが、ICT等の最新技術を用いた空間演出や、視</p>
<p>・PFI を導入することに反対。都民の公共財を企業に売り渡すのはやめてほしい、PFI が導入されたら入場料は 700 円に維持されるのか。民営の水族館と一緒にしているのか。</p>	<p>覚をはじめ諸感覚に訴える展示空間に新たに挑戦します。</p> <p>・入園料等の利用設定は、都立の水族館としての使命を果たす観点から、誰でも利用しやすいように、適切な価格等を検討します。</p>
<p>・老朽化、展示の陳腐化、バリアフリーの欠如、入場者数の減少は利用者として実感しており、改修は必要。改修にあたり合理的な経営計画が必要なことも異存ない。水族園は建設費を切り詰めることが求められる PFI に乗りにくい事業ではないか。</p>	<p>・新たな水族園の維持管理運営に当たっては、施設の効率的な管理と質の高い運営の両立のため、主に、施設の維持管理を PFI 手法で行い、水族園の根幹となる教育、文化的な専門性の高い業務は指定管理者に担わせることにしています。互いに連携し、一層のサービス向上に努めます。</p>
<p>・業務分担をもっと細分化して考えても良いのではないか。売店といっても商品開発や販売戦略など分解できる。それをまとめて高い専門性を持った団体が担うのは疑問。</p>	<p>・詳細な業務分担については、今後、高い専門性が必要な業務と、それ以外の業務とに分けて、最良な分担を引き続き検討します。</p>
<p>・都市公園の維持管理に関して民間事業者が事業を展開しながら公園を維持する概念が実現可能となった。今回の建て替え計画は、維持管理にコストがかかる既存の水族園の建物というのが理由の一つだが、そもそも水族園の建物を公園の一施設として内包していることが問題。水族園を公園運営から分離して都の直轄施設とすれば公園 PFI の事業構造においてこの施設の維持管理コストは含まれないことになる。そのようにして都民全体の財産を保護すべき。</p>	<p>・現在も、葛西臨海水族園の管理、運営に要する費用と、葛西臨海公園の管理、運営に要する費用は分離されています。</p> <p>・事業計画 26 頁以降に示す事業手法は、事業計画 24 頁に示す通り、東京都が事業主体となりつつ、多様な主体との連携や交流を想定し、効率的・効果的な施設整備・維持管理運営や園内サービスの向上を実現させることを想定したものです。</p>
<p>・PFI-BTO では事業採算性が最優先事項となってしまう、水族園が担うべき教育的な側面、文化的な側面が難</p>	<p>・事業計画 24～26 頁のとおり、新たな水族園の維持管理運営にあたっては、施設の効率的な管理と質の高い運営</p>

<p>しくなる。マイナス面も対策を施し、本事業にふさわしい手法を新たに開発していく姿勢が重要。</p>	<p>の両立のため、主に、施設の維持管理をPFI手法で行い、水族園の根幹となる教育、文化的な専門性の高い業務は、指定管理者制度の活用を想定しています。</p>
<p>・指定管理者の更新によって、変化させてはいけない。運営理念や哲学の連続性が担保されないことを危惧する。</p>	<p>・事業計画24頁のとおり、事業手法は、東京都が事業主体となりつつ、多様な主体との連携や交流を想定しております。東京都は、本事業計画に則り、新たな理念の実現に向け、事業を進めてまいります。</p> <p>・新たな水族園では、水族園の機能に関連する根幹の業務については、これまでの実績を継承できる、高い専門性を持った団体が担うよう、指定管理者制度の活用を想定しています。</p> <p>・なお、指定管理者は議会の承認を得て決定します。</p>
<p>・計画案のような複合的な指定管理は現場を混乱に陥れるもので、直轄もしくは一法人にある程度の期間を任せるようにすべきである。</p> <p>・管理運営に複数団体を入れることで刺激や新たなノウハウの確立が期待できる一方、方向性や考え方の相違が多くなる可能性がある。今までのやり方は大きく変わらないでほしい。</p> <p>・公民の連携、協働の方向性を示すことが大切ではないか。連携しやすいように、PFI事業者の業務に事業全体のコーディネート業務を入れ、多様な主体との連携等を進める仕掛け人などを配置してはどうか。</p>	<p>・事業計画26頁の通り、東京都は、引き続き葛西臨海水族園の基本的な運営方針や大規模修繕等の計画の立案と実施を担ってまいります。</p> <p>・新たな水族園の維持管理運営に当たっては、施設の効率的な管理と質の高い運営の両立のため、主に、施設の維持管理をPFI手法で行い、動物飼育等専門性の高い業務は指定管理制度の活用を想定していますが、実施に当たっての両者の協力体制を確保するため、都が適切な組織システムを整理してまいります。</p>
<p>・JIAの倫理規定により、携わる建築家の仕事を勝手に別の建築家がかかわることを禁止している。利害関係がある事実を知りながら、東京都が発注先を変更するには互いの設計者の合意がないと発注できないことを理解すべき。</p> <p>・デザイナーは、その意匠を主張するような方を排除し、柔軟な対応を行ってくれる人を選ぶべき。</p>	<p>・事業計画27頁のとおり、今後、事業者の選定方法も含め、質の高い事業の実施を目指してまいります。</p> <p>・また契約については、都の契約の手続きに則り、適切に行ってまいります。</p>
<p>・経済性優先となるため、自由度が無くなる等の問題点も指摘されており、設計は独立して委託すべき。</p>	<p>・事業計画25～27頁のとおり、民間ノウハウの活用により、自由な発想や最新技術を活かした設計やコストを</p>

<ul style="list-style-type: none"> ・PPP やPFI 等経済収支、工事監理の容易さ等を理由として物事を決定すべきではない。専門分野の異なる業務を個別に発注すべき。 	<p>意識した設計・施工が期待できるため、設計・施工・工事管理・維持管理を一括して複数年度で発注する手法として、PFI-BTO 方式を想定しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・また、ご指摘の問題点については、PFI 手法実施の際に留意する点として事業計画 27 頁に記載しています。さらに、その実現に向けた仕組みを記載しました。
<ul style="list-style-type: none"> ・事業費を抑えるのは当然だが良いものを作ることが優先。国内の水族館にライバルはいない、ぐらいいのものにしてほしい。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・調査研究分野でも国内外の水族館や研究機関、大学と協力し、成果を上げてもらいたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業計画 4 頁の通り、様々な組織・団体等との連携により、研究、活動の幅を広げられるように取り組んでまいります。
<p>事業計画全体について（30件）</p>	
<p>事業計画素案に反対（20件）</p>	
<p>（反対とする理由等）</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・施設の更新の必要性は技術的に根拠がなく、事業計画（素案）に反対。既存施設は現代において歴史的価値がある建築物である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・平成元年の開園から令和元年で30年を迎え、施設や設備等の老朽化が進んでいます。
<ul style="list-style-type: none"> ・事業計画には反対。水族館として設計させている建物から水族館の機能をなくすことは、建物から魂を抜き取るようなものである。 	<ul style="list-style-type: none"> ・しかし、4/34 頁に記載の通り、現水族園を改修して水族園として使い続けることには多くの課題があり、非常に困難です。そのため、既存施設とは別に、新たに建築する建物に水族園機能を移設することといたしました。
<ul style="list-style-type: none"> ・事業計画には驚くばかりで賛同できない。ガラスドームが誘う風景は人々にとって忘れられない風景となっており、30年という時間が作っていた財産を破壊されることを心が理解できない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・既存施設については、パブリックコメントや、有識者からも、利活用に関するご意見が出されています。これらを踏まえて、水族園機能は新たに建築する建物に移設しますが、新施設整備の取組と並行して利活用の可能性とその採算性等について検討を行ってまいります。水族園機能を移設した後に、施設の状態等を調査の上、そのあり方について決定していく旨を、事業計画 6 頁に記載しました。
<ul style="list-style-type: none"> ・都民にとってかけがえのない文化遺産となっている現施設の破棄することは、暴挙のそしりを免れ得ない。事業計画に反対である。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・葛西臨海水族園は、環境との一体化を類まれなレベルで実現している稀有な建築であり、世界的に高く評価されている。既存の環境的文脈を無視した建築を挿入してしまえば、周到に計画された環境建築としての現水族園の価値を大きく損なう不安がある。「事業計画」は一旦白紙に戻し、現在の水族園の建物を改修・増築することによって、利活用する方向で再検討すべきであることを強く希望する。 	

<ul style="list-style-type: none"> ・既存施設を基礎においた新しい水族園計画こそ、費用と時間をかけて次世代に繋げる価値のある事業と考え、事業計画素案の全面的見直しを願う。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・更新ありきの計画には納得ができない。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・既存施設の取り扱いの前提に大きな疑問があり、計画に反対。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・既存施設とは別に建築する建物に水族園機能を移すとの方針に合理性がなく、心情的にも賛成できないため、計画に反対する。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・全体を通して、改修、増改築は今更面倒なので新築したほうが楽、という思惑が透けて見える。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・この計画はもつてのほか。至急撤回して谷口氏とどうするか協議し最善の道を探すべき。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現水族園は、令和元年で開園後 30 年が経過し、バックヤードでは設備等の老朽化が進んでいます。大規模更新が急務であることや、環境問題をはじめ、国内外の社会状況が変化していることから、平成 29 年度より専門家による検討会を設置し、これからも多くの方々に親しまれる都立水族館として持続的に発展していくためのあり方やその実現方策を検討していただきました。
<ul style="list-style-type: none"> ・事業計画素案は拙速な方針決定と言わざるを得ず、反対。広く信任を得た専門家による再検討を求める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・都では、その報告を踏まえ、基本構想や事業計画を策定しております。こうした経緯を、事業計画 40 頁に記載しました。なお、検討会の資料及び会議録は、東京都建設局のホームページで公開しています。
<ul style="list-style-type: none"> ・本計画（素案）の前提が崩れていることが明らかなのだから、一旦立ち止まり計画の最初から再検討されることを要望。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新たな水族園の整備と水族園機能の移設が必要である理由や、バリアフリーに対する考え方等を、事業計画 7～10 頁のコラムに追記しました。
<ul style="list-style-type: none"> ・今の計画は、水族園のあるべき姿、国内外の水族館の先導的役割を果たすという熱い思いは伝わるが、文化、伝承という視点には欠けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・既存施設については、パブリックコメントや、有識者からも、利活用に関するご意見が出されています。これらを踏まえて、水族園機能は新たに建築する建物に移設しますが、新施設整備の取組と並行して利活用の可能性とその採算性等について検討を行ってまいります。水族園機能を移設した後に、施設の状態等を調査の上、そのあり方について決定していく旨を、事業計画 6 頁に記載しました。
<ul style="list-style-type: none"> ・都の現在の計画に反対。葛西臨海水族園は日本を代表する建築家の力作である。その価値をしっかりと検証していただきたい。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・有名建築家及びこの建物を愛した人たちの意見を聞くことなく破壊することを強行しようとする東京都に一旦立ち止まることを要望する。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・新水族園計画は賛成できない。既存本館の扱いを検討せず、先送りしての計画であるため。 	

<ul style="list-style-type: none"> ・都の提案の根拠が専門家である建築士らによって否定されている以上、現在の素案の計画を進めるべきではない。税金はまず人間の安全や生活の維持向上、高齢化や少子化対策等に対して使うべきであり一部の業者の利権のために使うべきではない。そのため、素案の計画を進めるべきでない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・都は平成 29 年度に、「葛西臨海水族園のあり方検討会」を立ち上げ、幅広い専門家の方々に議論をしていただき、都立水族園の必要性やあり方について取りまとめ頂きました。 ・この検討会報告書において、今後の葛西臨海水族園には、海の持続可能性を守る、広く環境保全に繋げる、地域の価値・都市の価値を高めるということを網羅的に実践することが強く求められました。 ・都がまとめた基本構想は、この検討を踏まえたもので、持続可能な社会の実現に貢献することを重視しております。
<p>事業計画素案に賛成（7件）</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・世界にも名前の知られた実績にある水族館であるから、都立の水族館を継続していくのは当然である。計画のような、これからの時代に寄り添った、都民に愛され、誇りに思ってもらえるような、公共のあるべき水族館を実現してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業計画に基づき、新たな水族園像の実現に向け取り組んでまいります。 ・なお、既存施設についても、新施設整備の取組と並行して、利活用の可能性とその採算性等について検討を行い、水族園機能を移設した後、施設の状態等を調査の上、そのあり方を決定していく旨を、事業計画 6 頁に記載しました。
<ul style="list-style-type: none"> ・葛西臨海水族園から東京湾を望む景観は素晴らしいものがあるが、塩害による建物の老朽化や設備の現実を痛感しているのは、そこで働く人々や所有者である。変化が求められる水族館として対応していくためにも、東京都の計画案に賛成する。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・都の検討状況を応援する。誰が設計しようが都民の税金で作ったものは都民のものである。建築家が権利を主張したいならば自己資金で設計するべきである。 	

その他（3件）	
<p>・そもそも都の水族館が必要なのかという問いが素案にない。水族館は民間が自前で建てて成功している分野。建て替えて入園料が上がれば、税金をかける意味がますますなくなる。</p>	<p>・地球規模で進行する環境問題が深刻化し、持続可能な社会を目指す統合的な取組が国内外で進んでいる中、葛西臨海水族園にも、環境教育を重要な保全活動の一つとし、あらゆる学びの機会を提供するプログラムの拡充等を通じて、広く環境保全に繋げることが求められています。</p> <p>・こうした社会的責任に対し、これまでに培った高い技術や豊富な経験を生かして継続的に取り組むことが、都立の水族館の責務と考えています。</p>
<p>・長期修繕計画の中で適切に管理されていれば、老朽化という言葉はその建築に対しては適切でなくなる。老朽化を理由に建て替えや機能の廃止を訴えるのは、なすべき維持管理を怠っていたと表明することとなり、理屈に合わない。現在の施設の維持より、次に何をつくらうかという考えが優先しているように見える。</p>	<p>・現水族園の施設や設備については、劣化度調査に基づき修繕計画をたて、随時修繕をしております。しかし、施設の大規模な改修となると、設備や配管が過密に配置されているため更新作業のスペースがないこと、大規模工事は避けられず長期間の休園となるため、全ての世代に絶え間なく海と人とのつながりを感じる場を提供できなくなること、工事中、当園の生き物を一時保管できるキャパシティを持つ水族園等の手配は困難なため、敷地内に仮設備を整備し保管する場合も、一時的な仮設とは言え本設と何ら変わらないため多額の費用を要することになる等、様々な課題があり、非常に困難です。新たな水族園の整備と水族園機能の移設が必要である理由を、事業計画7～10頁のコラムに記載しました。</p>
<p>・現在の施設の骨格を示しつつ、都が目指す展示が実現できないことを具体的に示す必要がある。そもそも新築時に更新工事のサイクルと費用については検討されていることが一般的で、その内容を都民に開示する必要がある。館内移動はエレベーター増設で改善可能と思われ、第三者設計者による検討を行い、その結果を示すべき。別建物の工事期間中の入館者の減少や、隣接地で大規模工事が行われる場合の環境影響についてリスクを検討し、都民に示すべき。東京都の計画案は多様な観点からの妥当性検討が不十分であり、実施の可否を判断できる状態にないと想定される。</p>	<p>・平成元年の開園から令和元年で30年を迎え、施設や設備等の老朽化が進んでいます。</p> <p>・しかし、4/34頁に記載の通り、現水族園を改修して水族園として使い続けることには多くの課題があり、非常に困難です。そのため、既存施設とは別に、新たに建築する建物に水族園機能を移設することといたしました。</p> <p>・上記のような、新たな水族園の整備と水族園機能の移設が必要である理由や、バリアフリーに対する考え方を、事業計画7～10頁のコラムに記載しました。</p>

これまでの進め方に関することについて（61件）

<ul style="list-style-type: none"> ・既存施設を解体、再建築を推進している委員には退会又は辞任を求める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「葛西臨海水族園のあり方検討会」及び「葛西臨海水族園事業計画検討会」は、葛西臨海水族園の大規模更新が急務であることや、環境問題をはじめ、国内外の社会状況が変化していることを踏まえ、これからも多くの方々に親しまれる都立水族館として持続的に発展していくためのあり方や、その実現方策を検討していただくために設置したものです。 ・両検討会は、各々全5回の会議を終え、終了しております。 ・両検討会の議事録は、各委員に確認の上作成し、当日の資料とともに全て公開しています。 ・また、最終的に都へ提出された報告書も公開されています。 ・報告書にも記載がありますが、両検討会の委員からも、既存施設の利活用に関する意見が寄せられております。 ・都はこれらを踏まえて、既存施設についても、新施設整備の取組と並行して、利活用の可能性とその採算性等について検討を行い、水族園機能を移設した後、施設の状態等を調査の上、そのあり方を決定してまいります。事業計画6頁にその旨を記載いたしました。 ・なお、既存施設の取り壊しを都が決定した事実はなく、基本構想素案において使用していた、取り壊しを想起させる「改築」という表現については、基本構想策定時に修正をしております。
<ul style="list-style-type: none"> ・あり方検討会に建築専門家が参加していないのは問題で、葛西臨海水族園のあり方を少数の人間が官僚主導の密室の議論で勝手に決めることは許されない。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの都民の意見を尊重して最低でも委員会を再構築して時間をかけて議論するのが筋だろう。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・現水族園の内容を熟知する施設運営者、専門家、元設計者の参画の元、改修あるいは改修+増築に向け、しかるべき専門家により再度議論されるべき。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・環境負荷の低減を考えるのであれば、まずは谷口氏を検討メンバーに含め改修ではだめなのか、もしくは一部増築することで新たな機能を満足できないかを模索するのが将来に対するの真摯な態度。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・水族館機能向上に向けて、現水族園を活かす検討が浅い。設備更新の検討が世界最高技術を持つコンサルタントによるものでなければ受容できない。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・既存施設の使い方を来年度改めて検討する会を設置すべきと報告書に明記すべきと示された数名の委員の意見が、報告書においては簡単に触れるにとどまっている等、事業計画検討会で事務方の意に即した発言のみが取り上げられ記載される恐れがある。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・職員個人が取り壊しを決めないでほしい。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・担当課長の辞任要望 	
<ul style="list-style-type: none"> ・都の進め方は、新水族園建設を誘導する行為。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・強引な会議運営とそれを主導している官僚の氏名がネットで知ることできる。このプロセスを民主主義といえるのか。 	

<p>・検討会での事務局の説明には嘘（設備更新やバリアフリー対策ができない等）があり、嘘に基づいた事業計画になっているため、事務局の人員・体制を刷新した上で、改めて事業計画を検討することとすべき。</p>	
<p>・検討会で複数の検討委員から既存施設活用を検討してほしいと要望がでていのに、事務局が一貫して対応を拒否し、強引に新築を誘導している。検討会での健全な議論が阻害されており、検討会会議録と事業計画とで内容に齟齬が生じている。事業計画から検討会の記載を削除すべきではないか。</p>	
<p>・既存は放っておいて新規施設づくりを急ぐ、既存の活用は後で考えるというのは無責任。まずは、谷口氏ら現在的水族園を作られた方々とじっくり話し合い、バランスを壊さぬよう新しいものを取り入れられないか考えるべき。計画の進め方を見直すべき</p>	
<p>・木が1本もない埋め立て地を谷口氏が今のような森を作り、海と水族園が一体となる素晴らしい環境と建築を具現化した。東京都並びに日本の宝であり、建物だけではなく環境そのものを谷口氏が作られたのであって、東京都が勝手に改修とか、建て替えを判断すべきではないはず。</p>	
<p>・東京都による捏造報告書を根拠に既存建築物の建て替えを正当化させてはならない。</p>	<p>・現水族園の施設や設備については、老朽化調査等を実施し、適切な時期に修繕をしております。また、バリアフリーについても、車椅子利用者やベビーカー利用者が観覧できるよう、出入口の拡幅やスロープの設置などの改修に取り組み、観覧通路を可能な限り確保しています。</p>
<p>・樹木の一時移設や一部壁面の一時撤去を理由に更新不能のように言うのは、現施設を否定するための誘導として悪意を感じる。</p>	<p>・しかし、4/34 頁に記載の通り、現水族園を改修して水</p>
<p>・既存施設の取扱いについて「水族園機能を移設後、施設の状態等を調査の上そのあり方を検討」することと書かれていることが問題。これまでにバリアフリー計画があったこと、設備の入れ替えを前提に設計されていること等を評価せず新施設への移転を既定路線にしていることは乱暴と言わざるを得ない。</p>	<p>族園として使い続けることには多くの課題があり、非常に困難です。そのため、既存施設とは別に、新たに建築する建物に水族園機能を移設することといたしました。</p> <p>・新たな水族園の整備と水族園機能の移設が必要である理由や、バリアフリーに対する考え方等を、事業計画7～10 頁のコラムに記載しました。</p>

<ul style="list-style-type: none"> ・30年しか経過していない建物が老朽化しているとは思えない。故意に維持管理を十分にせず、老朽化を促進させていたのではないか。バリアフリー工事が実施されていないのはなぜか。当初から建て替えありきでことが進行していたのではないか。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・事実を隠蔽したまま、「既存施設とは別に新たに建築する建物に水族園機能を移設」と新施設の実現に向け進めようとしていることに反対。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・改修するとしたら、展示している生き物をどうするかという課題など、克服すべき課題は簡単ではないが、広く国内外の水族館改修の事例を研究検討すべきである。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・きちんとした情報開示を求める。(バリアフリー対策の設計を行いながら一部工事を実施していない、事実を隠蔽している。) 	
<ul style="list-style-type: none"> ・現水族館は老朽化し不具合が生じているとあるが、その根拠となる現況調査、分析報告書とその調査分析者と共に開示してほしい。設備機器の交換、バリアフリー化は可能で検証もしていると聞くが、設計者とその技術的検証はしたのか。もししていたら誰がどのようにしたか報告書を開示してほしい。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・水族館として最も重要な設備部分の情報も詳細に調査を行い、公開してほしい。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・「施設が抱えている問題」が具体的に明らかにされていないことが問題。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・既存施設を改修した際に、アクセシビリティがどの程度改善されるのか、その費用は、改修はどのように進められるのかを先に提示してほしい。既存施設の大改修で実現できること、増築して可能なこと、すべてを新しく作り直さないといけないこと、いろいろな可能性を示してほしい。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・基本構想のパブコメのうち90%近くが水族園の取り壊しに反対しているにも関わらず計画を進めようとするのは暴挙。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「葛西臨海水族園の更新に向けた基本構想 素案」に対するパブリックコメントでは、79通のご意見をいただきました。 ・いただいたご意見に対する東京都の考え方をまとめ、

<ul style="list-style-type: none"> 基本構想のパブリックコメントでは 89%が既存施設の活用や更新を望んでいたのに少数意見を抽出して基本構想がまとめられたのは、公平性、情報の透明性に反し、情報操作的な行為とみなされる恐れがある。 	<p>基本構想に反映させるとともに、基本構想の公表に合わせて、意見募集の結果を東京都建設局ホームページに掲載いたしました。</p> <ul style="list-style-type: none"> 基本構想素案における「改築」という表現は、取り壊しを想起させる、建築基準法の改築と同じ意味を指すものと誤解を招いてしまいました。そのため、基本構想の公表の際には、「改築」という表現を修正いたしました。
<ul style="list-style-type: none"> 第4回検討会議事録が公開されないままパブコメを募集するのは不適切な運用ではないか。すべての掲載事項が揃ってから改めて1か月の意見募集を行うべき。 	<ul style="list-style-type: none"> 葛西臨海水族園事業計画検討会については、第4回を終えた段階で報告案をまとめていただくように予め依頼しており、予定通り第4回を終えて、それまでの議事を踏まえて、座長より報告書案が示されました。 その後速やかに、報告書案と第4回における検討結果を踏まえ、都が事業計画素案を作成、公表いたしました。
<ul style="list-style-type: none"> 都民の大切な文化財である現在の施設をどう保存、改修して行くかをまず決めてから新しい水族園の構想を進めていくべき。 既存施設を利用する方法に時間をしっかりかけるべき。 現行の水族園施設をどうするのか未確定のまま新施設の建設を進める理由がわからない。 既存施設の利活用計画が白紙のままであるのは片手落ちである。新施設を既存施設のすぐ隣接した公園内の敷地に建設するのであれば、その新施設と既存施設の合理的で機能的な関係を計画し、事業決定した上で新施設の設計をすべきである。 	<ul style="list-style-type: none"> 水族園機能は新たに建築する建物に移設しますが、前述のとおり、既存施設についても、新施設整備の取組と並行して検討を行い、水族園機能に移設した後、施設の状態等を調査し、決定していきます。こうした考え方で葛西臨海水族園の現状を、事業計画7～10頁のコラムに記載しました。 また、新たな水族園の整備要件としては、なぎさ等の周辺環境や公園内の他の施設との繋がりに配慮し、葛西臨海公園全体の魅力を高める施設としてまいります。
<p>今後の進め方に関することについて (30件)</p>	
<ul style="list-style-type: none"> 既存の建物やその外観を残すために新たに計画する水族館に大きな制約が課せられることは、いい水族館を作ることから遠ざかることで、本末転倒。保存のために水族園の将来の可能性を狭めるのは建築家の傲慢。水族館は外見ではなく、なによりも役割や機能が優先されるべき施設。 	<ul style="list-style-type: none"> 葛西臨海水族園の更新に当たっては、あり方の検討から事業計画の検討まで、多様な専門家によって検討いただき、その報告書等を踏まえ事業計画を策定いたしました。今後は、葛西臨海水族園の新たな理念を実現するために、事業計画に従って進めてまいります。 水族園機能は新たに建築する建物に移設しますが、前述のとおり、既存施設についても、新施設整備の取組と並行して検討を行い、水族園機能に移設した後、施設の状態等を調査し、決定していきます。こうした考え方

	と葛西臨海水族園の現状を、事業計画7～10頁のコラムに記載しました。
<ul style="list-style-type: none"> ・第三者委員会を立ち上げる工夫などはあるのか。 ・建築の専門家の意見をきちんと反映すること、検討プロセスをオープンにすること、改修、増築にあたっては元設計者の谷口建築設計研究所を必ず関与させること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・葛西臨海水族園の更新に当たっては、あり方の検討から事業計画の検討まで、多様な専門家によって検討いただき、その報告書等を踏まえ事業計画を策定いたしました。今後は、その事業計画に従って進めてまいります。 ・新施設の整備にあたっては、事業計画27頁のとおり、今後、事業者の選定方法も含め、質の高い事業の実施を目指してまいります。
<ul style="list-style-type: none"> ・建て替えの前に、現在の問題点を明らかにしてアイデアを集めるオープンなやり方で進めれば、改修にも理解が得られて、一層ファンも増える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・契約については、都の契約の手続きに則り、適切に行ってまいります。
<ul style="list-style-type: none"> ・土建業界の餌食となることを非常に懸念している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・なお、引き続き、既存施設の設計者に対して、丁寧に説明を行ってまいります
<ul style="list-style-type: none"> ・現水族園の改修増築に関しては、谷口建築設計研究所が何らかの形で関与しなければならない。当然著作権上も原設計者の意向を踏まえることは必須。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・原設計者と緊密に連携する、この事業に真にふさわしい設計体制を整える措置を必ず講じていただきたい 	
<ul style="list-style-type: none"> ・解決方法は、谷口建築設計研究所に問題点の解決案を作成してもらるか、現状の問題を明らかにしたうえで谷口氏を含む審査チームで解決案をコンペで募ることだと思う。増改築も新築も提案可能として問題解決の具体性を比較すべき。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・増築案を谷口氏に依頼、あるいは増築案を公募し谷口氏に審議させるなど、建築物の質を保ちながら使い続ける仕組みを使ってほしい。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・現場の声抜きでも、谷口氏抜きでも話を進めることは難しいと考える。同じ場で話し合い、よりよい道を探ることはできないか。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・周辺の水辺の総合的な計画も示したうえで、将来を見据えた既存施設のあり方と大水槽を有する新棟の必要性とその相互の連携、将来に向けたサステイナブルで健全な水族館施設の運用方法の検討をお願いします。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業計画17頁の通り、新たな水族園の整備等の事業実施に当たっては、周辺環境や施設との調和や連携を図りながら、東京湾に面する立地の利点を十分に生かして、葛西臨海公園全体の魅力向上を目指します。 ・また引き続き、既存施設の設計者に対して、丁寧に説明を行ってまいります。

<ul style="list-style-type: none"> ・東京湾岸の連続する景観全体を考えた上で、隣接他県も含めた施設配置計画も考えられなければならない。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・谷口氏に改修の方針を打診する、あるいは公園全体の環境計画の監修を依頼するのが筋 	
<ul style="list-style-type: none"> ・仮に既存建築を残す場合、その維持管理費用まで水族館入園料に反映されて、入園料が高くなることには反対。水族館とは別料金で設定して、そもそも残す必要性があったかどうかを検証してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・既存施設についても、新施設整備の取組と並行して検討を行い、水族園機能を移設した後、施設の状態等を調査し、決定してまいります。 ・今後は、事業計画に基づき新たな水族園像の実現に向けて取り組んでまいります。
<ul style="list-style-type: none"> ・現在の本館のまま水族館を継続しても、日本的なエンターテインメント施設の域を出ず、既存建物ありきで議論され、新たな水族園の役割を果たせなくなることがないように望む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・入園料については、事業計画23項の通り、都立の水族園としての使命を果たす観点から、誰でも利用しやすいように、適切な価格となるよう検討します。
<ul style="list-style-type: none"> ・パブリックコメントは、建築学会を中心に建築家等からの意見が多く集まるように思われる。しかし、集まった意見の割合が都民の総意と比例しているとは限らない。何らかに反対したいときに意見が集まる傾向にあるため、こうした点も考慮して決定してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「葛西臨海水族園の更新に向けた事業計画（素案）」に対する意見募集では、268通のご意見をいただきました。 ・いただいたご意見に対する東京都の考え方をまとめ、事業計画に反映させるとともに、事業計画の公表に合わせて、意見募集の結果を東京都建設局ホームページに掲載いたします。
<ul style="list-style-type: none"> ・現施設の取扱いについてきちんと説明及び決着をつけるべき。老朽化や社会情勢に対応が難しい箇所も多いと思う。外観重視でデザイン性の高い建物なので、補修にかかる費用も莫大だと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業計画7～10頁の通り、現水族園を改修して水族園として使い続けることには多くの課題があり非常に困難です。そのため、水族園機能は新たに建築する建物に移設します。
<ul style="list-style-type: none"> ・既存館は世界の例に学び、日本の建築技術を持って次の幾十年先まで利用できるサステイナビリティを目指すべき。 	<ul style="list-style-type: none"> ・既存施設についても、新施設整備の取組と並行して検討を行い、水族園機能を移設した後、施設の状態等を調査し、決定していきます。
<ul style="list-style-type: none"> ・現施設の保全計画に際しては、現施設の設計者が建築及び都市景観の保全の観点から継続して行うべき。 	
<p>葛西臨海公園、周辺環境に関することについて（7件）</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・葛西臨海部の環境を破壊または汚染するような計画には反対である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新たな水族園の実現に当たっては、周辺環境や施設との調和や連携を図りながら、東京湾に面する立地の利点を十分に生かして、葛西臨海公園全体の魅力向上を目指します。
<ul style="list-style-type: none"> ・葛西臨海公園と併せてより魅力的なエリアとなるよう総合的に計画してほしい。 	

<ul style="list-style-type: none"> ・公園全体を使いやすくカフェなどを充実させ、船での利用をわかりやすくするなどソフト面での工夫で活かす。 ・過去に積み上げた都市整備成果を評価してから見直してはどうか。機能的一体感を含め整備してきた知識や情報をさらに生かしてほしい。既存を建築遺産として残せというつもりはないが、憩いの場として整備してきたエリアをBBQ等稚拙な機能ではなく場所の特性をいかし、防災機能の高度化や成熟した公園機能として整備することが肝要。 ・本物の生態系に連なるよう、周辺環境そのものの生態系作りから構築した意図が、日本には稀有で守り育て引き継いでいくべきコンセプトである。 ・葛西臨海公園は、水族園を訪れる人たちだけでなく、公園で遊ぶ人たちを含めて都民の財産である。現在の水族園周辺の環境はとてもきれいで心地よく、より多くの都民のために、現在の建物を含めた目に見える環境全体を保全してほしい。 ・谷口氏設計の建築をあくまでも群として活用することこそ意義があると思う。 	
<p>今後の取組に関する具体的な提案（34件）</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・水族園が果たす役割とは何かを募集してはどうか。 ・マイクロプラスチックなどの海洋汚染、環境についての教育をしてほしい。 ・海水温上昇、台風の強大化など気象についての教育をしてほしい。 ・案内解説版がやや少ない。名前だけでなく、生態の特徴が分かるよいと思う。入口付近で園の展示コンセプトや代表的な展示生物の紹介映像を流すなど。 ・イヤフォンガイドを導入するのもよい。外国語対応も必要。 ・教育活動においても、他の外部団体との協働を活発に行ったほうが良い。特に、水族館の中で完結させるのではなく、葛西海浜公園（西なぎさ）のフィールドを今後も積極的に活用して行ってほしい。有機的な連携 	<ul style="list-style-type: none"> ・いただいたご意見は、新たな水族園の実現に向け参考とさせていただきます。

<p>行うために、水族園にボランティアコーディネータを設置したほうが良い。</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・園内のバリアフリーは当然だが、非常時の避難経路も考慮すべき。非常階段しかないので車椅子やベビーカーでは逃げられませんでは困る。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・トイレは現在足りていない。1か所あたりの個数を増やしてほしい。すべて洋式とするのが妥当。ウォシュレットは衛生面で問題なので不要。誰でもトイレもある程度必要。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・ゾーンが変わるときに水槽の内部造作や照明、雰囲気が一変するくらいはかなり明確な対照化をしないと実際の来館者が意識することはないと思う。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・魚名板は水槽下部に設置してほしい。横よりも下の方が多くの人が見える傾向にあるように感じる。バックライト等の照明を使わずに水槽から漏れる光だけの方が水槽への写りこみが少なく嬉しい。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・濾過槽は開放式にしてほしい。開放式の方が生物ろ過が安定し、生き物の状態の向上・繁殖につながるのではないか。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・自由動線は一部他館でも採用されているが、成功しているようには見えない。通路幅が十分に確保されていない場合、車椅子、ベビーカーと来園者が接触する可能性があるのではないか。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・通路を挟んで水槽の反対側に水槽を置かないことが望ましい。この配置は通路の両側に人が留まることで人の流れを阻害し、反対側の水槽のガラス面に写りこみができてしまう。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・子供たちは小さな水槽で魚を触るのが好きなのでそれは続けていただきたい。図鑑がおいてあったりして子供が魚のことを調べられるようなコーナーが水槽の近くにあるとありがたい。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・レストランでの未利用魚、深海魚の紹介等、食育として新しい取り組みを求める。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・フードコートが充実したら嬉しい。 	

<ul style="list-style-type: none"> ・多様な教育プログラムや利用しやすい入園料金を維持し、水族館の活動は公的なサービスであるべきであるし、あり続けることを望む、今まで30年間、水族園が果たしてきたこの役割を担い続けてほしい。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・現在のユニークベニューは1時間で準備、撤去まで行わなければならない現実的ではない。ユニークベニューを収入源として位置付けるならば、水族園運営に影響が出ない範囲でどのような利用方法ができるかを設計、リフォームに反映してはどうか。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・レストランにアレルギーに対応したメニューを多く取り入れてほしい。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・最近のコインパーキングのように最短時間と上制限があると嬉しい。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・夜8時までは入園できると嬉しい。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・チームラボとコラボすればインバウンドが見込めると興味をわく。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・都道府県のシンボル一覧に東京都は魚がない。都民からシンボルを募集してはどうか。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・VRゴーグルをかけるとユリカモメが案内してくれる。水槽の魚を見るとその魚が話しかけてくれて自己 	
<p>PR してくれる。出口では魚との対決勝負があって勝ったらぬいぐるみがもらえる。</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・イベントの中に文化祭みたいなものがあるのはどうか。飼育員の出し物等。姉妹都市のセントラルコーストの水族館、魚も知りたい。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・図書館、スーパー銭湯、温泉施設とコラボしてはどうか。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・パラリンピックのメダリストが月替わりで名誉館長になって、その競技を体験できる等としてはどうか。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・入園料が2000円になったら私は足を運ばない。都の施設なのに高すぎる。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・入園料は1200円程度なら都民、来館者の多くが納得するのではないかと。年間パスポートの料金は2.5回分くらい 	

<p>までに抑えてほしい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・料金は 1000 円から 1500 円でもいい。1 回の料金を高くしても年間パスポートを 2000 円くらいに値下げしてくれるのが一番良い。子供の無料は続けてほしい。 ・料金はなるべく安い方が良い。大人は多少値上げしても子供の無料は続けてほしい。 ・東京動物園協会加盟施設共通のパスポートがあれば即刻購入したい。 ・博物館施設はできて終わりではなく、新しい知見を継続的に更新できるような設備・組織体制が必要。展示づくりやデザイン専門の部署などを一考すべき。 	
<p>その他の意見（6件）</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・もっと世界に、ドームと海と一体化した水族園をアピールして欲しい。今のシンボルを継続し、世界に定着させることが急務である。 ・街並みや風景を守ることに高い意識をもってほしい。これからの公共建築のあり方として、優れた建築を活かしながら改修し、使い続けるチャレンジを東京都が率先していく必要がある。 ・公共建築を維持管理する東京都には、建築や街並みの文化的な価値を育み育てる意識を持ってほしい。 ・既存施設を文化財として保存すべき 	<ul style="list-style-type: none"> ・既存施設については、パブリックコメントや、有識者からも、利活用に関するご意見が出されています。これらを踏まえて、水族園機能は新たに建築する建物に移設しますが、新施設整備の取組と並行して利活用の可能性とその採算性等について検討を行ってまいります。水族園機能を移設した後に、施設の状態等を調査の上、そのあり方について決定していく旨を、事業計画6頁に記載しました。 ・優れた建築や街並みの保全、既存施設の文化財としての保全等については、関係部署とも共有させていただきます。
<ul style="list-style-type: none"> ・新しい水族館の目的が不明確。東京の沿岸部は下水道処理問題が深刻。合流式を分流式に変更し、快適に住む環境づくりを行うことが本当の環境問題なのではないか。大金を使って水族館を建設するより先決。 	<ul style="list-style-type: none"> ・いただいたご意見は、関係部署と共有させていただきます。